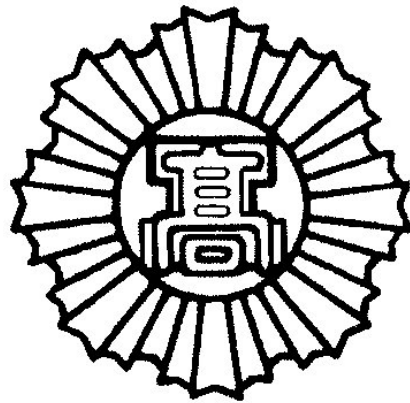


平成 27 年度  
学校評価結果報告書  
(中間評価)



広島県立広島工業高等学校

## 目 次

- 1 様式3【平成27年度自己評価シート（中間評価）】・・・・・・・・ 1
- 2 様式4【平成27年度自己評価シート（中間評価まとめ）】・・・ 6
- 3 様式7【平成27年度学校関係者評価シート（中間評価）】・・・ 9

平成27年度自己評価シート(中間評価)

|    |    |     |          |      |      |     |    |
|----|----|-----|----------|------|------|-----|----|
| 校番 | 81 | 学校名 | 広島工業高等学校 | 校長氏名 | 和田照文 | 全日制 | 本校 |
|----|----|-----|----------|------|------|-----|----|

| 学校経営目標   |  |                        |                        |                                       |  |               |  |
|--|--|------------------------|------------------------|---------------------------------------|--|---------------|--|
| 達成目標   | 本年度行動計画  | 目標値                    | 実績値                    | 評価                                    | 理由   | 担当部等          |  |
| 1  |  |                        |                        |                                       |  |               |  |
| 各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を60名以上にする。 | ・資格・検定試験に対して計画的な補習計画を立てる。朝読の時間を活用し、資格取得強化月間を設ける。               | 認定者数<br>60人            | 認定者数<br>15人            | B                                     | (教育研究部)<br>ジュニアマイスター前期<br>ゴールド3名<br>シルバー12名 計15名<br>(1学年会)<br>資格・検定取得の意義や日程について伝えた。<br>朝読の定着と、小テストを取り組ませている。<br>(2学年会)<br>計画的に補習を実施し、一定の成果を上げている。<br>(3学年会)<br>各教科・各学科と連携を取りながら、資格習得に力を注いだ。  | 教育研究部<br>全学年会 |  |
| ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す。                           | ・各科、ジュニアマイスター認定についての啓蒙と各種技能競技大会への取り組みを推進し、上位入賞者を目指す。           | 中国大会<br>6<br>全国大会<br>6 | 中国大会<br>7<br>全国大会<br>6 | B<br><br>B<br><br>A<br><br>A<br><br>A | (機械科)<br>高校生ものづくりコンテスト九州大会(旋盤作業部門)全国大会出場。地区大会優勝により、若年者ものづくり競技会(滋賀)に出場した。<br><br>(電気科)<br>高校生ものづくりコンテスト(電気工事)中国大会優勝・全国大会出場。<br>・シルバー入賞数2名と少なかった。<br><br>(建築科)<br>日本工業大学全国高等学校建築設計競技佳作受賞(10位以内入賞)<br>高校生ものづくりコンテスト(木材加工)中国大会優勝・全国大会出場<br>前期シルバー2名<br><br>(土木科)<br>高校生ものづくりコンテスト(測量)中国地区大会優勝・全国大会出場。<br><br>(化学工学科)<br>ものづくりコンテスト化学分析部門の広島県大会で1位と2位に入賞し、中国地区大会へ広島県代表枠で2名出場した。 | 工業科           |  |
| 技術・技能の伝承を進める。                                    | ・工業科目「実習」,「工業技術基礎」の実習指導書を活用した授業を実施する。<br>・各学科の技術・技能に係る研修を実施する。 | 授業数<br>16<br>研修数<br>3  | 授業数<br>14<br>研修数<br>0  | B                                     | (機械科)<br>2年生「実習」の旋盤パートなど実習内容の充実に努めた。また、指導力向上のため、技能検定等に教員が挑戦している。   | 工業科           |  |
|  |  | 授業数<br>15<br>研修数<br>2  | 授業数<br>5<br>研修数<br>0   | B                                     | (電気科)<br>授業数5に止まり予定通り実施できていない。8月に予定していた研修が中止。  |               |  |

|  |  |  |                       |                       |   |   |
|--|--|--|-----------------------|-----------------------|---|---|
|  |  |  | 授業数<br>16<br>研修数<br>2 | 授業数<br>12<br>研修数<br>0 | B | (建築科)<br>各実習担当者に指導書の<br>執筆を依頼している。                                |
|  |  |  | 授業数<br>16<br>研修数<br>2 | 授業数<br>8<br>研修数<br>1  | A | (土木科)<br>開放・結合トラバース測定の<br>研修会を実施した。                               |
|  |  |  | 授業数<br>16<br>研修数<br>2 | 授業数<br>8<br>研修数<br>0  | B | (化学工学科)<br>実習指導書を活用した実習<br>は継続中である。技術・技<br>能を伝承する研修会は実施<br>予定である。 |

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を60名以上にする》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- ・取得できる資格・検定について、3年間の取得計画モデルを示し、1年生 LHR 等において資格・検定受験の啓蒙を図った。
- ・教育研究部で担当する資格・検定について、適宜案内し、各学科の協力により計画的に受験指導を行っている。
- ・LHRでは、教育研究部と連携して、学科ごとに取得できる資格・検定を紹介し、3年間の取得計画モデルを示した。また、学科と連携し、資格の効力や進路・仕事へのつながりを説明した。
- ・学年通信では、定期考査や資格・検定試験日程の一覧表を作成し、生徒(保護者)に受験意欲の喚起を図っている。
- ・2年生は、どの学科も計画的に補習を実施し、全員合格の目標は達成できなかったが、一定の成果を出している。

(2) 課題

- ・ジュニアマイスター顕彰認定者数を増やすために、取り組む必要がある。
- ・全員受検の検定において、「取組み合格する」という経験を積ませる。
- ・ジュニアマイスター認定に向け、各自の意識を高め、クラス・学年でも機運を高めていく。
- ・2年生は、将来の仕事に直結する資格を除くと取得しようという意識が低い。

【今後の改善方策】

- ・ジュニアマイスター顕彰の後記認定者数の増加を図るために、資格・検定取得の適宜案内および受験指導を、各関係学科の協力を得て、計画的に推進していく。
- ・各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握していく。
- ・2年生は、来年度の進路決定とジュニアマイスターの認定に向け、さらに資格・検定の取得意欲を高める必要がある。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- ・生徒の先輩から後輩への技術の引き継ぎや、教員の献身的な指導とものづくりセミナーでお世話になっているマイスターの先生のご指導の成果といえる。
- ・県主催「ものづくり高校生マイスター」育成事業のセミナー等の参加、休日等を利用した、土木測量部の部活における練習の積重ねの成果が発揮された。
- ・高校生ものづくりコンテスト九州大会(旋盤作業部門)県大会・中国地区大会で優勝し、全国大会へ出場する権利を得た。また、県大会優勝により、若年者ものづくり競技会(滋賀)に出場した。特に広島県技能オリンピック機械製図部門では、1位、2位であった。また、機械製図検定(3年)の合格率も上がってきている。技能検定期前はのべ人数 44 人合格した。
- ・現在、資格取得へ向けて取り組み中の生徒も多く、マイスター認定者が増えることを期待している。

(2) 課題

- ・全国大会において入賞をめざす。
- ・ものづくりコンテストへ挑戦するためには、施設面や金銭面の支援体制を整える必要がある。

【今後の改善方策】

- ・ものづくりコンテスト等については、県費、クラブ後援費や生徒会費等、限りある予算を活用し、施設の充実や指導体制を整える。
- ・全国大会において、日頃の実力を発揮するために練習の積重ねと3人のチームワークの強化、メンタルトレーニング等を実施する。
- ・若年者ものづくり競技会(滋賀)では、本人の実力を発揮することはできなかった。競技会場で練習どおりのものができるよう、練習の仕方(諸課題に適切な判断ができるなど)やメンタル面の改善が必要である。また競技用旋盤が設置されていないことや練習時間の確保(選手が3年生で進路決定に向けた対応など)が難しいことが課題としてあげられる。広島県技能オリンピック(溶接作業)5位、アイデアロボット大会については県大会で敗退した。
- ・競技会、技能検定の成果を残すためには、指導体制のさらなる強化や設備の充実である。指導力向上の研修と協力体制の構築をしていき、「実

習」,「工業技術基礎」に検定内容の一部を取り入れるなどの工夫をしながら生徒への啓発をしていく。

《技術・技能の伝承を進める》

【評価結果の分析】

(1)成果

- ・夏季休業中に広島県高等学校教育研究会工業部会土木系小部会の研修会に参加した。
- ・学科の専門性を踏まえた研修内容を考慮し、資格取得やものづくりに係る技術や技能向上に役立つための教職員研修を実施している。今後も学科ごとに、研修会を行う計画を策定し、実施する。

(2)課題

- ・研修会の参加人数を増やす。
- ・予定していた教員の研修が中止となったので、再度検討中である。

【今後の改善方策】

- ・工業技術・技能向上に係る研修については、どの学科も計画どおり実施する予定である。
- ・第2回目の研修会は、長期休業及び定期考査の期間等、機会を捉え、多数の先生方に参加していただける研修会を計画する。

| 2 選ばれる学校づくり   |   |  |                                      |   |  |              |
|---------------|---|--|--------------------------------------|---|--|--------------|
| 入学希望者の増加を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中にオープンスクールを実施する。</li> <li>・本校の長所をアピールする資料を作成し、中学校訪問を複数回行う。</li> <li>・学校行事をはじめとする教育活動を記録し、学校ホームページを、定期的に更新する。</li> </ul>         | 入学者選抜 I・II<br>平均倍率<br>1.46 以上              | —                                    | B | (総務部)<br>7月28日、29日の両日午前午後の部に分けて計4回行い、一定の成果があった。1学期中学校訪問は未実施。10月下旬に実施する。<br>(教育研究部)<br>学校ホームページを適時更新した。 | 総務部<br>教育研究部 |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ紹介・オリエンテーション等において、クラブ加入を呼びかける。</li> </ul>  | 県大会<br>39以上<br>中国大会<br>11以上<br>全国大会<br>7以上 | 県大会<br>30<br>中国大会<br>17<br>全国大会<br>7 | A | 計画どおり、クラブ紹介、オリエンテーションを実施した。  | 総務部          |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係各部・クラス担任との連携を図る。</li> <li>○長期欠席生徒の把握・クラス担任・保健厚生部との連携</li> <li>○怠学傾向生徒の把握・クラス担任・生徒指導部との連携</li> <li>○問題行動生徒の把握・生徒指導部との連携</li> </ul> | 休転退学者数<br>18人以下                            | 休転退学者数<br>4人                         | A | 今年度の目標値 18 名には達していないものの、休学者1名、退学者1名、転学予定者が2名出ている。  | 教務部          |

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

【評価結果の分析】

(1)成果

- ・学校案内パンフレットの作成にあたっては、色遣いを変更するとともに、中学生やその保護者に本校の主に部活動と進路先をアピールするものとなるようにした。
- ・7月28日、29日の両日午前午後の部に分けて計4回、オープンスクールを行った。今年度も、学校紹介ビデオの上映や実習場見学等を通して、中学生やその保護者に本校の教育内容や生徒の様子について知ってもらうことができた。アンケートによるオープンスクールの肯定度は、中学生、保護者ともに98%であった。
- ・更新情報、必要な情報を適宜更新し、学校ホームページに掲載した。

(2)課題

- ・体育館行事が時間を超過してしまい、各専門学科の実習場見学に迷惑をかけた面があった。またプロジェクターの画面が暗く、はっきり見えない面もあった。
- ・1学期に未実施だった中学校訪問を10月下旬には必ず実施する必要がある。
- ・各関係部・係の情報を収集する。

【今後の改善方策】

- ・オープンスクールの時程について、体育館行事と実習場見学が余裕をもって行えるように紹介内容を精査しながら工夫改善が必要である。また、必要な備品等の予算要求については引き続き行ってきたい。

- ・中学校訪問については、時期・回数・持参資料等について、広報活動として成果の上がる方法を検討し、具体化していく。
- ・各関係部・係と適時連携し、情報を調査・整理し、HPの更新につなげる。

### <クラブの活性化>

#### 【評価結果の分析】

##### (1) 成果

- ・部活動の加入率は96%と例年通り高率である。途中で退部する生徒については、これまで加入していた部の退部届とともに、これから加入する部の入部届を提出させるなど、部活動に定着させる取組みを行った。

##### (2) 課題

- ・部活動への加入率は高いものの、実質活動していない生徒が実態としては存在する。

#### 【今後の改善方策】

- ・部活動を安易にやめさせないため、部活動を休みがちな生徒への早期の丁寧な指導をクラブ顧問にお願いする。

### <長期欠席・怠学傾向・問題行動生徒についてのクラス担任・生徒指導部との連携>

#### 【評価結果の分析】

##### (1) 成果

- ・平成26年度(この時期の)休転退学者数と比較するとほぼ横ばいであったが、ここ数年間では徐々に休転退学者数が減っている。

##### (2) 課題

- ・不本意入学や学校になじめない、怠学等による成績不振の生徒がおり、その対応が必要である。

#### 【今後の改善方策】

- ・今後について、学年会、教科・学科、分掌等と連携を図りながら、生徒の状況把握に努める。特に、各教科及び学科において情報交換を密に行ってもらい、年度末に向けて成績不振による休転退学者の減を目指す。

| 3 安全・安心・清潔な学校づくり |  |                     |                   |   |   |               |
|------------------|--|---------------------|-------------------|---|---|---------------|
| 安全で清潔な学習環境を保障する。 | ・全校生徒による美化活動を実施し、年間10回以上の活動を行なう。   | 大掃除<br>実施数<br>12回   | 大掃除<br>実施数<br>8回  | A | 清掃を計画どおり実施しており、校内は清潔な環境を維持している。   | 保健厚生部         |
|                  | ・1年生の集団宿泊訓練の実施における規律指導を実施する。<br>・授業規律の確立に重点をおいた指導を実施する。また、そのための各教科指導における連携を強化しつつ指導体制を確立する。 | 特別指<br>導件数<br>10件以下 | 特別指<br>導件数<br>10件 | B | (生徒指導部)<br>授業規律の徹底(基本的な生活習慣含む)を重視していることは生徒に浸透しているが、昨年より、授業遅刻が増加した。<br>(1学年会)<br>集団宿泊訓練において規律指導を徹底し、入学当初の目的を達成した。今後、授業規律を確立させるために関係者と適宜連携する。<br>(2学年会)<br>授業規律は徹底できているが、まだ居眠りをする生徒が若干いる。<br>(3学年会)<br>機会あるごとに3年生としての自覚を持たせ、すべての人から祝福される卒業式を迎えるために基本的習慣を指導した。 | 生徒指導部<br>全学年会 |

### 《安全で清潔な学習環境を保障する》

#### <美化活動の徹底>

#### 【評価結果の分析】

##### (1) 成果

- ・全校生徒による大掃除は、かなり定着していて、安全で清潔な学習環境を保障するため、今後も引き続き取り組んでいく。

##### (2) 課題

- ・平常時の掃除が、終礼時間が長く、毎日、実施できていないところがある。

#### 【今後の改善方策】

- ・平常時の掃除時間がきちんと確保できるよう、担任や管理職等と連携していく。

### <基本的な生活習慣の確立>

【評価結果の分析】

(1) 成果

- ・1 学期、登校遅刻は、昨年度比-38 件の減少だった。2 学期も継続して校門指導等の取組みを行う。
- ・集団宿泊訓練において規律指導を徹底し、入学当初の目的を達成した。前向きな生徒が多い状況ではある。
- ・授業規律は概ね徹底できている。

(2) 課題

- ・1 学期、授業遅刻は、昨年に比べ+21 件と増加した。継続して授業規律の徹底(基本的な生活習慣含む)を図るとともに、体調管理の徹底も含めて指導する。
- ・集団宿泊訓練後は時間やルールを厳守できていたが、徐々に意識が後退している者が増えてきた。
- ・一部授業中の集中力に欠け、居眠りをする生徒があった。

【今後の改善方策】

- ・頭髮服装指導も含めて生徒の生活態度が緩まないよう校門指導や巡回指導の徹底及び教職員の連携を図る。
- ・生徒の規範意識を高めるために、学習活動において、教職員の連携を図り組織的に指導していく。
- ・生徒状況を的確に捉えるため、関係者(各学科・教科やクラブ顧問等)との連携や日常的な情報交換をさらに行い、情報を共有し、適切な指導に生かす。
- ・時期やクラス・学年の状況に応じた注意喚起に加え、課題や望ましい方向をはっきりと伝え、クラスを中心に前向きに活躍するよう指導する。
- ・居眠りをする生徒について、クラスの他の子が積極的に起こして授業に向かわせる雰囲気を作っていく。

| 4 生徒の進路希望を実現                        |  |                 |                 |   |  |            |
|-------------------------------------|--|-----------------|-----------------|---|--|------------|
| 就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年進路ガイダンスの充実を図る。</li> <li>・SPI 検査模擬試験を実施する。</li> <li>・学習状況調査を実施後、職員研修会を開き生徒の実力を把握して進路指導を実施する。</li> <li>・有識者や卒業生による進路講演会を実施する。</li> </ul> | 就職試験一次合格率 92.5% | 就職試験一次合格率 94.8% | B | (進路指導部)<br>就職に関しての進捗状況は順調である。<br>(1学年会)<br>進路発見(研究・選択)について、積極的に促している。<br>(2学年会)<br>進路希望調査を実施し、徐々に進路意識は高揚しつつある。<br>(3学年会)<br>就職試験や進学試験を確かなものにするために、朝のSHRを有効に活用して、生徒の学力を伸ばす取組みをした。 | 進路指導部 全学年会 |
|                                     |  | 国公立大学進学者数 2人    | 国公立大学進学者数 一人    |   |  |            |

《就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- ・進路発見(研究・選択)について、定期的な進路LHRや進路希望調査を通して直接的に、一般常識問題小テストや学年通信等で間接的に促している。
- ・9月30日時点で、縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者175名中、158名の生徒が1回目の採用試験で内定している。その結果、最終的な就職一次合格率は94.8%となった。
- ・2年生は、進路希望調査に実施や3年生の進路意識の高揚を見て、自分の進路について考えるようになってきた。

(2) 課題

- ・不合格生徒への取組みが必要である。
- ・進路意識の低い生徒や、具体的な希望や展望を描くに至っていない生徒がいる。
- ・具体的に就職先・進学先について調べるところまでできていない。

【今後の改善方策】

- ・個別の進路指導ならびに応募前見学、採用試験の段取り等の企業対応を行う。
- ・進路発見に関する意識を高める情報提供や指導を進める。
- ・進路指導室の活用の仕方などに取り組む。

## 平成 27 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

|    |    |     |          |      |      |     |    |
|----|----|-----|----------|------|------|-----|----|
| 校番 | 81 | 学校名 | 広島工業高等学校 | 校長氏名 | 和田照文 | 全日制 | 本校 |
|----|----|-----|----------|------|------|-----|----|

## 1 評価結果の分析

## 《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を 60 名以上にする》

## (1) 成果

- ・生徒に工業に係る知識、技術の習得のため、多くの資格取得を挑戦させた。その結果、ジュニアマイスター前期ゴールド3名、シルバー12名、計 15 名となった。
- ・取得できる資格・検定について、3年間の取得計画モデルを示し、LHRや関連した授業において、資格・検定受験の啓蒙を図った。
- ・学年通信では、定期考査や資格・検定試験日程の一覧表を作成し、生徒(保護者)に受験意欲の喚起を図っている。

## (2) 課題

- ・ジュニアマイスター顕彰認定者数を増やすために、資格取得等の意識を高め、クラス・学年でも機運を高めていく必要がある。

## 《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

## (1) 成果

- ・本校を会場に「ものづくり高校生マイスター育成事業」セミナー等を計画どおり開催することにより、生徒の技能の向上を図ることができた。その結果、平成 27 年度高校生ものづくりコンテスト広島県大会では優勝または上位入賞し、旋盤作業、電気工事、電子回路部門、木材加工部門、測量部門、化学工学部門、計6部門において、中国大会に出場した。その結果、全国大会には、旋盤作業、電気工事、木材加工部門、測量部門、計4部門で、生徒が出場することになった。加えて、若年者ものづくり競技大会旋盤種にも出場を果たし、特別賞をいただいた。生徒の先輩から後輩への技術の引き継ぎや、教員の献身的な指導とものづくりセミナーでお世話になっているマイスターの先生のご指導の成果といえる。

## (2) 課題

- ・全国大会において入賞を目指し、競技力向上に取り組む。

## 《技術・技能の伝承を進める》

## (1) 成果

- ・夏季休業中に広島県高等学校教育研究会工業部会土木系小部会の研修会に参加した。
- ・学科の専門性を踏まえた研修内容を考慮し、資格取得やものづくりに係る技術や技能向上に役立つための教職員研修を実施している。今後も学科ごとに、研修会を行う計画を策定し、実施する。

## (2) 課題

- ・研修会の参加人数を増やす。
- ・予定していた教員の研修が中止となったので、再度検討中である。

## 《入学希望者の増加を目指す》

## 《中学生へのPR活動の実施》

## (1) 成果

- ・学校案内パンフレットの作成にあたって、色遣いを変更するとともに、中学生やその保護者に本校の主な部活動や進路状況をアピールした。
- ・7月28日、29日の両日午前午後の部に分けて計4回、オープンスクールを行った。今年度も、学校紹介ビデオの上映や実習場見学等を通して、中学生や保護者に本校の教育内容や生徒の様子を伝えることができた。アンケートによるオープンスクールの肯定度は、中学生、保護者ともに 98%であった。
- ・更新情報、必要な情報を適宜更新し、学校ホームページに掲載した。

## (2) 課題

- ・1学期に未実施だった中学校訪問を 10 月下旬には必ず実施する必要がある。
- ・各関係部・係の情報を収集し、HPの更新につなげる必要がある。

## 《クラブの活性化》

## (1) 成果

- ・部活動の加入率は 96%と例年通り高率である。途中で退部する生徒については、これまで加入していた部の退部届とともに、これから加入する部の入部届を提出させるなど、部活動に定着させる取組みを行った。

## (2) 課題



・部活動への加入率は高いものの、実質活動していない生徒が実態としては存在する。

#### ＜長期欠席・怠学傾向・問題行動生徒についてのクラス担任・生徒指導部との連携＞

(1) 成果

・平成 26 年度(この時期の)休転退学者数と比較すると若干名増えているが、ここ数年間では徐々に休転退学者数が減っている。

(2) 課題

・不本意入学や学校になじめない、怠学等による成績不振の生徒がおり、その対応が必要である。

#### 《安全で清潔な学習環境を保障する》

##### ＜美化活動の徹底＞

(1) 成果

・全校生徒による月1回以上の大掃除は、かなり定着しており、現在まで8回の大掃除を実施し、安全で清潔な学習環境を整備している。

(2) 課題

・平常時の掃除が、終礼時間が長く、毎日、実施できていないところがある。

##### ＜基本的な生活習慣の確立＞

(1) 成果

・1 学期、登校遅刻は、昨年度比-38 件の減少だった。しかし、授業規律の徹底(基本的な生活習慣含む)も重視していることは、生徒に浸透してきているが、昨年より、授業遅刻が増加した。

(2) 課題

・1 学期、授業遅刻は、昨年に比べ+21 件と増加した。継続して授業規律の徹底(基本的な生活習慣含む)を図るとともに、体調管理の徹底も含めて指導する。

#### 《就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する》

(1) 成果

・進路発見(研究・選択)について、定期的な進路LHRや進路希望調査を通して直接的に、一般常識問題小テストや学年通信等で間接的に促している。

・9月30日時点で、縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者175名中、158名の生徒が1回目の採用試験で内定している。

・現時点での就職一次合格率は94.8%となった。

(2) 課題

・不合格生徒への取組みが必要である。

・進路意識の低い生徒や、具体的な希望や展望を描くに至っていない生徒がいる。

・具体的に就職先・進学先について調べるところまでできていない。

#### 2 今後の改善方策

##### 《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を60名以上にする》

・ジュニアマイスター顕彰の後記認定者数の増加を図るために、資格・検定取得の適宜案内および受験指導を、各関係学科の協力を得て、計画的に推進していく。

・各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し、資格の取得等への意欲につなげる。

##### 《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

・ものづくりコンテスト等については、県費、クラブ後援費や生徒会費等、限りある予算を活用し、施設の充実や指導体制を整える。

・全国大会において、日頃の実力を発揮するために練習の積重ねと3人のチームワークの強化、メンタルトレーニング等を実施する。

・若年者ものづくり競技会(旋盤)では、本人の実力を発揮することはできなかった。競技会場で練習どおりのものができるよう、練習の仕方(諸課題に適切な判断ができるなど)やメンタル面の改善をする。

・競技会、技能検定の成果を残すためには、指導体制のさらなる強化や設備の充実である。指導力向上の研修と協力体制の構築をしていき、「実習」、「工業技術基礎」に検定内容の一部を取り入れるなどの工夫をしながら生徒への啓発をしていく。

##### 《技術・技能の伝承を進める》

・工業技術・技能向上に係る研修については、どの学科も計画どおり実施する。

・第2回目の研修会は、長期休業及び定期考査の期間等、機会を捉え、多数の先生方に参加していただける研修会を計画する。

##### 《入学希望者の増加を目指す》

##### ＜中学生へのPR活動の実施＞

・オープンスクールの時程について、体育館行事と実習場見学が余裕をもって行えるように紹介内容を精査しながら工夫改善する。また、必

要な備品等の予算要求については引き続き行う。

- ・中学校訪問については、時期・回数・持参資料等について、広報活動として成果の上がる方法を検討し、具体化していく。
- ・各関係部・係と適時連携し、情報を調査・整理し、HPの更新につなげる。

#### ＜クラブの活性化＞

- ・部活動を安易にやめさせないため、クラブ顧問は、部活動を休みがちな生徒への早期の丁寧な指導をする。

#### ＜長期欠席・怠学傾向・問題行動生徒についてのクラス担任・生徒指導部との連携＞

- ・今後について、学年会、教科・学科、分掌等と連携を図りながら、生徒の状況把握に努める。特に、各教科及び学科において情報交換を密に行い、年度末に向けて成績不振による休転退学者を減少させる。

#### 《安全で清潔な学習環境を保障する》

##### ＜美化活動の徹底＞

- ・平常時の掃除時間がきちんと確保できるよう、担任や管理職等と連携していく。

##### ＜基本的な生活習慣の確立＞

- ・頭髪服装指導も含めて生徒の生活態度が緩まないよう校門指導や巡回指導の徹底及び教職員の連携を図る。
- ・生徒の規範意識を高めるために、学習活動において、教職員の連携を図り組織的に指導していく。
- ・生徒状況を的確に捉えるため、関係者（各学科・教科やクラブ顧問等）との連携や日常的な情報交換をさらに行い、情報を共有し、適切な指導をする。
- ・時期やクラス・学年の状況に応じた注意喚起に加え、課題や望ましい方向をはっきりと伝え、クラスを中心に前向きに活躍するよう指導する。
- ・居眠りをする生徒について、クラスの他の子が積極的に起こして授業に向かわせる雰囲気を作る。

#### 《就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する》

- ・個別の進路指導ならびに応募前見学、採用試験の段取り等の企業対応を行う。
- ・進路発見に関する意識を高める情報提供や指導をする。
- ・進路指導室の活用の仕方などに取り組む。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

平成 27 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 27 年 10 月 27 日

|    |    |     |          |      |      |     |    |
|----|----|-----|----------|------|------|-----|----|
| 校番 | 81 | 学校名 | 広島工業高等学校 | 校長氏名 | 和田照文 | 全日制 | 本校 |
|----|----|-----|----------|------|------|-----|----|

| 評価項目             | 評価 | 理由・意見  |
|------------------|----|--|
| 目標、指標、計画等の設定の適切さ | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標、指標、計画等の設定は工業高校の特徴を出されている。さらに、より多く挑戦的に取り組まれることを望みます。</li> <li>・上記を踏まえて、次年度はミッションの「拠点校として工業教育の牽引的役割を果たす」の項目を取り上げてほしい。</li> <li>・前年度の比較だけでなく過去五ヶ年を見て分析し計画されている所はいい。</li> </ul> |
| 計画の進捗状況の評価の適切さ   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野とも積極的に取り組まれ成果を挙げている。中間の評価として、最終の数値は設定されているが、中間も目標値を明確にしていきたい。</li> <li>・数値評価されているので信頼度は高い。</li> </ul>   |
| 目標達成に向けた取組の適切さ   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成に向けた行動計画が昨年と同じであるので、成果に期待されにくい項目があるのではと懸念する。</li> </ul>  |
| 評価結果の分析の適切さ      | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果と課題がよく精査されている。</li> <li>・総体的には分析が適切である。改善方策の一部に抽象的な表現をされているものがあり、改善されれば、解決策が更に容易になるだろう。</li> </ul>   |
| 今後の改善方策の適切さ      | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果の分析(成果、課題等)を踏まえて改善方策が立案されているが、具体的な取組みが見えない所がある。</li> </ul>   |
| 総合評価             | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな分野にすばらしい成果をあげている。指導者はもちろん、生徒本人が各項目を自分のものと認識し、挑戦されるような施策を考えたら、更なる成果をあげられるのではなからうか。</li> <li>・分かりやすい評価となっている。今後は、中間目標も設定していきたい。</li> </ul>                                   |